

図書館だより

秋田大学附属図書館

附属図書館ホームページ

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

菅江眞澄の道を通って 21

君待ち坂の春紅葉。藤琴へ向う途次。眞澄は49才の折、藤琴をへて白神山地に入った(一八〇三)。

秋田大学名誉教授 山本穆彦氏 画

目次

巻頭言 人体解剖学の学習と大学図書館	阿部 寛	2
シリーズ 心に残る一冊(42)	銭谷 秋生	3
著書紹介(7)	長谷川 章/新山 喜嗣	4
本学教職員等著作寄贈図書		5
トピックス		6
新人紹介		8
医学部分館コーナー		9
お知らせ/編集後記		10

人体解剖学の学習と大学図書館

附属図書館医学部分館長 阿部 寛



毎年5月のさわやかな緑と風に包まれる中、私が担当する医学科2年次生の人体解剖学実習が始まる。ガイダンスの後、献体された故人に心静かに黙祷を捧げ、その後に実習が開始する。医学生にとって解剖学実習とは、医師となるための象徴的な学問の一つだと思う。

医師としての責任と使命を果たすためには、まず人体を科学的に観察し、観察力を養うことが不可欠である。漠然と眺めたり感情的に見たりするのではなく、人体という複雑な機構の中から必要な情報、たとえば特定の筋肉や神経に関する情報や、正常と病的状態の比較などの情報を適切に抽出する能力が求められる。教科書に描かれている人体は平均値やひとつの理想形にすぎず、実際の人体は顔が一人一人異なるのと同様に身体の内部も一人一人が強い個性をもつ。しかし強い個性をもちながらも、全体としてバランスのとれた身体を構成し、隅々まで適切な解剖学の名称が存在している。

臨床の現場では、患者さん一人一人の身体や病状の個性に対して合理的な判断をすることが要求されるが、それらを丁寧に診ていくという考えの基本について解剖学実習を通して理解することができる。徹底的に勉強するという表現は最近の学生教育では流行ではないかもしれないが、徹底的に解剖することによって、解剖学の知識に加えてこのような能力が身につくのである。

人体は教科書通りではないと書いたが、それを理解するにはやはり教科書が基本である。医学部分館には解剖学を始め、医学全般の教科書がたくさん揃えてあり、必ずしも高い新品を購入しなくても学習可能である。また医師に勉強からの卒業はなく、国家試験合格後も研修終了後も、一生勉強が続くのである。それは医学が常に進歩するからであり、また

人体には個性があって患者さんの身体や病状の個性が一人一人異なるからでもある。常にアンテナを高く上げ先人の知恵から最新の情報まで思いを馳せ、また一方で患者さん一人一人からの情報を大切にしたい。その基本を学ぶのも図書館であると思う。

学生の前に眠っている御遺体は、長い人生を良き社会人として暮らしてきて、医学の発展を心から願って献体登録した方々である。身体を科学的に視るばかりでなく、この方々の願いに応えるべく、丁寧にきちんと解剖するべきであることを、ガイダンスの中で説明している。人体の精巧な構成を観察することにより、一つの細胞から人体の構造が完成して誕生に至るすばらしさに感動し、人の命に対する深い畏敬の念をもつようにもなる。また人の誕生や死について少しずつ思索を深めるよう指導しているつもりである。心やさしい優れた医師となるために、生命への畏敬の念が不可欠だと思うからだ。

実習室の周囲の木々が強い日差しの中で緑に輝く7月、深い勉強の機会を与えてくれた御遺体とお別れする日が来る。学生はそれぞれお棺に納め、実習初日と同じように心静かに黙祷を捧げる。実習中にいつのまにか御遺体に話しかけ、「心の会話」をしていたことにあらためて気づき、寂しさで胸がいっぱいになる。そのことは毎年実習を指導している私たち教員も同じなのである。

これを読んでいる学生の皆さんには、それぞれ専攻の学問と関連する基礎の学問があると思う。これらを学習する時、良い教科書・書籍との出会いはとても重要である。その際、ぜひ大学図書館を有効活用して欲しい。そして学問を極め立派な社会人となって、それぞれの場所で活躍してくれる事を私は望んでいる。

(あべ ひろし 大学院医学系研究科 医学専攻 形態解析学・器官構造学講座 教授)



『ゴルギアス』

プラトン 著 加来彰俊 訳
岩波文庫 1967年 発行



銭谷 秋生

哲学は、「真理とは何か」とか「存在とは何か」といった、ものごとの本質を問う試みを展開しようとする。しかし、そのような問いかけは不可能なのではないかという反論が、哲学が誕生しようとしていた頃にすでに提出されていた。こんなふうに。〈あなたは、知らないからそのように問う。しかし、全然知らないものをどうやって探究するのか。それはできないことだ。例えば、何かを探しているうちに自分が何を探しているのか忘れてしまう場合があるが、それと同じように、知らないものは探せないからだ。また万一それに出会ったとしても、それが自分の探していたその知らないものだとしてどうやって確認するのか。〉

これはプラトンの『メノン』という作品に登場する、ソフィストと呼ばれた人々の一人が語る、かなりいかがわしい反論である。ソフィストとは、古代ギリシャの民主制社会にあって最も重要視された政治的技術である「弁論術」を教えると称して登場してきた人々を指す。『メノン』からの引用で分かる通り、彼らは「～とは何か」という本質への問いをあっさりと断念し、「どうすればある事柄を真理らしくみせることができるか、あるいは善らしく思わせることができるか」という点に関心を集中し、その「技術」を提供することで渡世していた。

そのようなソフィストのなかから代表的な人物を選びだし、ソクラテスとの熾烈な討議の場に置くのがプラトンの対話篇なのだが、『ゴルギアス』もその一つである。この作品に呼び出されたソフィスト

は三人。いずれもデフォルメされているが、実在したとされる人物である。弁論術とは「法廷やその他の集会において、正や不正について説得する技術である」と胸を張るゴルギアス。その説得は「自分には自由をもたらし、自分の住んでいる国においては他者を支配することができる」ようにしてくれると述べるポロス。そして「正義不正義の区別は、マジョリティである弱者が強者から身を守るために案出したフィクションでしかないから、その区別に拘泥して支配をためらってはならない」とするカリクレス。この三人である。

作品のなかのソクラテスは、常に原理的なところから彼らの主張を吟味し、じわじわと追い詰める。「そもそも技術とは、医術がそうであるように、それが関わる対象の善を目指すものではないか。弁論術が善を問わない営みだとすれば、それは技術の名に値するものだろうか」という具合に。

ソクラテスが、さらに、ポロスやカリクレスの論理にどのように論駁を加えていったのかについては、実際に作品を読んでもらうしかない。作品に分けてみると、哲学のテクニカル・タームなどなかった時代に、普通の人が普通に用いる言語によって、哲学そのものの現場を見事に構築したプラトンの力に出会うことになる。それは、プラトン自身が哲学の始まりをなすと述べた「驚き (thaumazein)」に打たれる出会いになるだろう。ここに紹介した所以である。

(ぜにや あきお 教育推進総合センター 教授)

この図書は本館2階E-小型図書にあります。(131.3 Ⅱ Ka28)

著書紹介 (7)

『ロシア文化の方舟』

—ソ連崩壊から二〇年—

野中 進・三浦 清美(他) 編著
長谷川 章(他) 著

(408頁 東洋書店 2011年12月発行)



昨年はソ連崩壊20周年だったが、本書は30名の研究者がここ20年間のロシア文化の激動について論じた論集である。その対象は文学・映画・美術・音楽・宗教・歴史観・生活文化等、驚くほど広い。本書を一読すれば、日本で政治的なニュースだけに接してはわからない、現代ロシア文化のダイナミックな姿が見えてくるはずだ。

本書の他の著者の論考を読むと、私も改めて感慨に耽るような指摘が随所にある。例えば冷戦時代、他の社会主義国を旅行するのにも厳しい制限があった状況は完全に過去の話。現在ドイツには300万人の旧ソ連出身者が暮らしている。また、この20年でロシア全土に普及した日本車は、あるロシア人作家の言葉を借りれば「我々の経済であ

り、政治であり、文化であり、宗教である」レベルにまで達している等。

この中で、私はソ連時代のアニメを取りあげている。チェブラーシカ等のソ連アニメのキャラクターは日本のアニメにはない独特の哀感を漂わせている。その理由を主に雪解け世代の挫折感と関連づけて論じてみた。出来はよくわからないが、それでもこの論文には一つ思い出深い所がある。私は2009年度から昨年度まで教育文化学部基礎科目「国際文化理解Ⅱ」を担当したが、本稿はそこでの講義をもとにしているためだ。授業で見せたアニメについての学生の感想は、一般的な日本人はこう考えるのかと大変参考になった。その点でも本書は個人的に愛着のある一冊となっている。

(文：はせがわ あきら 教育文化学部欧米文化講座 教授)

この図書は本館2階F-秋田大学コーナーにあります。(302.38 || N95)

『ソシアの錯覚』

—可能世界と他者—

新山 喜嗣 著

(361頁 春秋社 2011年8月発行)



われわれにとって、目の前にいる人物が昨日の人物と同一であることはあまりに自明なことであり、普段はだれも気にもとめないだろう。

しかし、「ソシアの錯覚」を呈した患者は、恋人や友人など自分にとってもっとも大切な人物がある日を境に外見がそっくりのニセモノになったと、そう確信してしまう。このような患者は、身に起こったただならない事態を周囲に語る。ただし、「どこもかしこも似ているけど別人だ」という言葉はあまりに奇妙であり、ことを心配した周

囲の人々は患者を連れて精神科医のもとを訪れることになる。

一方で、このような「ソシアの錯覚」を呈した患者を診察する精神科医の方にとっても、この患者の訴えは格別な存在論的な不安を放つ症状なのである。なぜなら、われわれは身近にいる人物を以前と同じ人物であるとだれもが確信しているが、実のところ同一であるとする絶対的な根拠はどこにも見当たらないからである。

いまや、われわれにとって日常の生活の水面下

に深く沈潜していた問題が浮上することになる。それは、同一性、個体、世界といった、古くから哲学の中で形而上学の名で呼ばれてきた問題群である。これらの問題群が、「ソシアの錯覚」を呈した患者の登場とともに、われわれの前ののっぴ

きならない課題として露わになる。本著『ソシアの錯覚－可能世界と他者』は、人物の同一性の問題を分析哲学の視点から徹底的に解き明かそうとする試みである。

(文：にいやま よしつぐ 大学院医学系研究科 保健学専攻 作業療法学講座 教授)

この図書は医学部分館 2階開架図書にあります。(WM200 || N72s || 2011)

本学教職員等著作寄贈図書

(平成23年9月～平成24年8月受入)

本館所蔵図書は「2階F-秋田大学コーナー」にあります。

本学教職員が著し、寄贈されたものです。ありがとうございました。

寄贈者名(敬称略)	書名	出版社	出版年	請求記号
長谷川章 分担執筆	ロシア文化の方舟：ソ連崩壊から二〇年	東洋書店	2011	本館 302.38 N95
Donald C. Wood 著	The economics of religion : anthropological approaches(Research in economic anthropology : an annual compilation of research:v.31)(Emerald Books)	Emerald	2011	本館 332 O11
望月一枝 著	シティズンシップ教育と教師のポジションリティ：家庭科・生活指導実践に着目して	勁草書房	2012	本館 371.6 Mo12
高村竜平 分担執筆	Invisible population : the place of the dead in East Asian megacities	Lexington Books	2012	本館 385.6 A96
勝守真 著	Niels Bohr's complementarity : its structure, history, and intersections with hermeneutics and deconstruction : hbk(Boston studies in the philosophy of science:286)	Springer	2011	本館 421 Ka88
佐川馨 企画制作	秋田が生んだ音、音楽：先人の音の遺産を辿る	秋田大学教育文化学部	2012	本館 CD 219
佐川馨 企画制作	秋田が生んだ音、音楽：先人の音の遺産を辿る	秋田大学教育文化学部	2012	本館 DVD 318
坪井ひろみ 編	My Japan and my Akita : perspectives of international students at Akita University (秋大留学生の日本・秋田論) 改訂版	三文舎	2012	本館 302.124 Ts15 分館 302.124 My 2012
秋田大学医学系研究科 編	なくならない命のながれ：産婦人科の仕事(秋田メディカル・サイエンスカフェ:第13回)	秋田大学医学系研究科	2011	本館 DVD 303 13 分館 VT 1083 (DVD)
秋田大学医学系研究科 編	解剖学実習と献体(秋田メディカル・サイエンスカフェ:第14回)	秋田大学医学系研究科	2011	本館 DVD 303 14 分館 VT 1084 (DVD)
秋田大学医学系研究科 編	新しい戦略による小児疾患の予防と治療(秋田メディカル・サイエンスカフェ:第15回)	秋田大学医学系研究科	2012	本館 DVD 315 分館 VT 1103 (DVD)
滝澤行雄 著	メタボとがんに効く魚のチカラ	同時代社	2007	分館 QU145 Ta73m 2007
滝澤行雄 編	Sake : health and longevity	Veronica Lane Books, c2010	2010	分館 WB400 T136s 2010
塩谷隆信 共編著	訪問呼吸ケア・リハビリテーション：誰でもわかる在宅呼吸管理	中外医学社	2011	分館 WF145 H83 2011
塩谷隆信 共編	呼吸ケア 第3版(リハ実践テクニック)	メジカルビュー社	2011	分館 WF145 Sh78k 2011
新山喜嗣 著	ソシアの錯覚：可能世界と他者	春秋社	2011	分館 WM200 N72s 2011

※図書館では本学教職員の著作物(単独著書、共著書、編著書、訳書、分担執筆、学位論文)を積極的に収集し、利用に供しています。出版の折にはご寄贈くださるようお願いいたします。

図書館資料展示コーナー

2011年度から

昨年度から本館に設置されている、2つの資料展示コーナーをご紹介します。

①企画展示コーナー（2011年4月から）

書庫等に保存されていて普段なかなか目に触れることのない貴重な所蔵資料を、テーマに沿って企画展示しています。これまでのテーマ「夏目漱石 復刻初版本展示」では、初版が出版された明治・大正当時の雰囲気が伝わる漱石の復刻本を集め展示しました。また、「明治期の教科書」をテーマとした時には、明治期に教科書として使用されていた啓蒙書や当時の検定教科書を展示しました。今後も継続していきますので、来館の際には是非ご覧ください。展示スペースは、本館1階ラウンジです。



明治期の教科書

②ミニ展示コーナー（2011年10月から）

1階玄関エレベーター前のスペースにミニ展示コーナーを設置しました。このコーナーでは、図書館職員がその時々旬なテーマを設定し、関連する図書を展示しています。例えば、4月は[大学生活]、8月は[オリンピック]がテーマでした。また、[英語]、[就活]をテーマにした時には多くの学生さんに興味を持ってもらえたようでたくさんの図書が貸出されました。展示している図書は、すべて図書館にある資料ですので、通常の図書と同じように借りることができます。展示が終わったあとは図書館内の書架に戻しますので、「もう一度読みたい!」という図書がありましたら書架をお探し下さい。今後も魅力的なテーマを企画していきます。是非ご覧ください。

学生選書

2011年11月

通常、司書や教員がしている図書館資料の選定に学生さんにも参加してもらいました。個人またはグループごとに選書したい分野を申し出てもらった上で、その分野内で必要な図書や他の人にも読んでほしい図書をリストアップしてもらいました。2011年度は7つのグループが参加し、79冊の図書を購入しました。2012年度も実施します。詳細が決まり次第ホームページでお知らせしますので是非ご参加下さい。

【2011年度選書分野】

音楽、日本史、地理、磁性、プログラミング
理学、教育（国語）、日本文学、芸術・デザイン、地学



図書館利用者アンケート実施

2011年11月

昨年11月に、学生と教職員を対象に図書館利用者アンケートを実施しました。その結果を踏まえて、試験期間の開館時間の延長、Office入りのデスクトップPCや貸出用ノートPCの増設、混雑時に研修室を閲覧室として開放するなど行いました。施設や、予算等の関係ですべてのご要望にお応えすることはできませんが、これからも図書館では、皆様のお声に応じていけるよう努めてまいります。

図書館ミニトーク会

2012年7月18日～20日

司書を目指す方、図書館の仕事に興味がある方を対象にミニトーク会を開催しました。7月18日「図書館司書として求められている人材像」、19日「図書館のお仕事紹介」、20日「図書館職員採用試験受験体験記」をテーマとして図書館職員が各回30分ほどお話しました。述べ27名の参加があり、本学の学生さんの他に本学事務職員や近隣中学校の生徒さんらの参加もありました。参加者からは「時間が30分と短いので参加しやすかった。」「図書館への就職について、自分で調べるだけだったので、職員の話聞いてよかった。」「(図書館の)お仕事については、全く想像できなかったため、詳しいお話が聞いて良かったです。」といった声が寄せられました。



ミニトーク会の様子

秋田大学子ども見学デー

2012年8月9日

夏休み恒例の秋田大学子ども見学デーが8月9日(木)に開催され、図書館コースには親子合わせて19名の参加がありました。

立花附属図書館長の歓迎挨拶のあと、館内ツアー、スタンプラリー、メモ帳作成、iPad 読書と、夏休みのひとときを親子でアカデミックに過ごしていただきました。



メモ帳作成



親子で iPad !

学生の学習をサポートする 取り組みを始めました

2012年度から

本館では、今年度新たに、学生をサポートする2つの取り組みを始めました。

①学習サポートデスク開設 (2012年4月から)

学習サポートデスクでは、レポートの書き方、資料の探し方、図書館の使い方を先輩(院生・4年生)がアドバイスしてくれます。今年4月からスタートしました。レポートの書き方に関する質問が多く、実際にパソコンを使った指導に、「説明が丁寧でよかった。」「実際に操作してよくわかった。」といった声が寄せられています。

後期も引き続き平日16時15分から18時15分まで、1階コモンズにてスタッフがお待ちしていますので、学習のことでお困りの際にはどうぞお気軽にご相談ください。

②図書館ミニ講習会開催 (2012年5月から)

講習会の内容は、国内論文の探し方、外国論文の探し方、文献整理法、図書館の利用法などで、計6回行いました。今後も随時開催する予定です。また、研究室やゼミ単位などのオーダーメイド講習会も受付しております。希望される方は kikaku@lib.akita-u.ac.jp までご連絡ください。内容等ご相談の上、開催します。



レポート作成法の指導の様子



ミニ講習会の様子

新・人・紹・介

学術企画担当 永井 聖也

昨年の9月から図書館(本館)で働いております、永井聖也と申します。図書館で働き始めて約1年になります。普段は事務室での作業が多いですが、週に3日は窓口におりますので、何でもお気軽にご相談ください。

私もつい3年前までは学生でしたが、図書館で仕事をするようになって初めて知ったサービスやツールも多く、自分が学生の時、もっと図書館を活用しておけばよかったとも感じております。中でも便利なのは、自宅に居ながらも図書館のHPからMy libraryにログインして、借りている図書の貸出期間が延長できることです(注意:他の人の予約が入っているときは不可)。みなさんもぜひご利用ください。

また私が学部生のみなさんにオススメしたいのは、自分の興味があることを論文検索サイト「Cinii Articles(さいにーあーていくるず)」で検索してみることです。そして興味がある論文があったら実際に読んでみてください。気軽に論文に親しんでいただければと思います。もちろん論文の検索の仕方、資料の探し方等わからないことがあればいつでもサービスデスク、学習サポートデスクにご相談ください。



医学部分館コーナー

《日本看護学会論文集が電子版に！》 最新看護索引Webを導入しました。

日本看護学会論文集が第42回（平成23年度）以降電子版のみとなりました。

「最新看護索引Web」を導入（保健学科看護学専攻で購入）することにより、同論文集の全文の閲覧が可能になりました。（第41回以前のバックナンバーは掲載されていません。プリント版をご覧ください）

看護分野に限定した国内雑誌文献データベースですので、医中誌Webと合わせてご利用ください。

図書館ホームページの各種データベースからご利用いただけます。

注) 学内限定 同時アクセス数1

最新看護索引Web 日本看護協会図書館

検索結果 > 検索TOPへ > フォルダを見る

雑誌 : 日本看護学会論文集 看護教育 を含む 全て含む
巻(号) : 42巻(号) ページ : 211ページ

検索結果 1件

全項目 を 新しいデータ の順に 100 件ずつ 表示

チェックした文献のみ表示 チェックした文献のフォルダ保存 → 条件を変えて検索

1

【標題;副標題】地域連携のための訪問看護ステーション・医療機関相互研修における退院調整のプロセスを展開するグループワークの評価
【著者】小野美奈子 [ほか(おの/みなこ)] [宮崎県立看護大学]
【雑誌名】日本看護学会論文集 看護教育(1347-8265)
【巻(号)】42
【ページ】p211-214
【発行年月】2012.4
【参考文献数】6
【分類】日本看護学会ほか
【件名(キーワード)】連携/訪問看護ステーション/医療機関/退院調整/グループワーク/評価
【記事区分】実践
【文献No】Pre1204901

最新看護索引Web PDF

ここからPDFファイルが入手可能です

チェックした文献のみ表示 チェックした文献のフォルダ保存 → 条件を変えて検索

医中誌WebにMy医中誌機能が追加されました！

My医中誌とは、利用者ひとりひとりが、自分のEメールアドレスをユーザーIDとして登録し、医中誌Webを使い方や好みに合わせてカスタマイズできる機能です。詳細は、医中誌WebのMy医中誌から入ってご確認ください。



国立女性教育会館の図書が貸出できます！

国立女性教育会館とは、「女性教育の振興を図り、男女共同参画社会の形成に資することを目的」として設立された機関で、男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する図書を多く所蔵しています。今回その女性教育会館から図書100冊を借り受けました。2階Dセクションに特設コーナーを設置して配架しています。館外貸出も可能ですのでどうぞご利用下さい。3ヶ月ごとに新しく図書を借り受けて入れ替えます。10-12月のテーマは「キャリア」「政治」「メディア」、1-3月は「恋愛」「キャリア」「家族」(予定)です。



貸出用ノートPCが増えました！

図書館では館内でノートPCの貸出を行っています。ご利用になったことはありますか？今年度、館内貸出用のノートPCを新たに増やしました。

現在本館は17台(Windows:6台、Mac:1台、iPad:10台)、医学部分館は4台(Windows:3台、Mac:1台)が利用可能です。貸出対象は学内者です。学習・研究にぜひご利用ください。

【ノートPC利用上の注意】

- ・ご利用の際は学生証(または図書館利用者カード)をお持ちの上、本館サービスデスク、医学部分館カウンターにお申込ください。
- ・MyLibraryに登録されている必要があります。また学内の有線・無線LANを利用する場合、総合情報処理センターのアカウントが必要です。
- ・本館1F及び医学部分館1Fでの利用に限ります。
- ・印刷はできません。



新たにMac Book Proの貸出を開始



iPadの貸出も行っています(本館のみ)

編集後記

図書館がリニューアルして1年半。さまざまなイベントや講習会を開催したり、また、試験期には開館時間を延長し、サービスの向上に努めてまいりました。来館者数も増加し、うれしく思っています。これからも学習のみならず、憩の場として図書館をご活用ください。皆様のご来館をお待ちしております。

図書館だより 第70号

2012年10月1日発行

編集 秋田大学附属図書館出版物編集委員会
発行者 秋田大学附属図書館
〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052
FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252
E-mail: 本館 riyos@lib.akita-u.ac.jp
分館 ibun@lib.akita-u.ac.jp